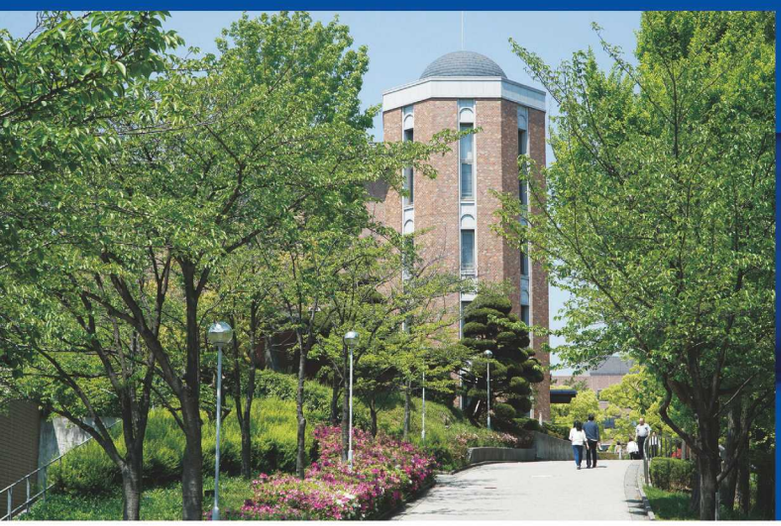
関西大学文化交渉学研究拠点
Aug. 2016 No. 2

関西大学文化交渉学
ICIS NEWS LETTER
ニューズレター



CONTENTS

— ICIS 研究班活動報告
— 東アジア文化交渉学会第 8 回国際シンポジウム開催
— 研究員の活動報告

文化交渉学研究拠点（ICIS）研究班活動報告

ICIS（Institute for Cultural Interaction Studies, 文化交渉学教育研究拠点）の3研究班は、前年度に引き続きそれぞれの専門領域から文化交渉学の課題に取り組み、一定の成果を得ることができました。

「言語接触研究班」は、「域外（＝欧米、日本、朝鮮、琉球等）」の資料を対象に中国語に関する多角的、複眼的な研究を進め、これまでの中国語研究ではあまり取り上げられることのなかった周縁資料に中国語史再構築に資する言語資料としての光をあて、書誌的な整理と言語分析を積み重ねました。

「近世近代日中文化交渉（日中移動伝播）研究班」は、近世から近代にかけての東アジア圏における情報の移動および伝播に注目し、日本と中国における文化交渉の実態を追跡し、文化事象相互の比較研究を進めました。対象となる事象は膨大かつ広汎ではありますが、各研究員の専門分野に立脚しながら、近世近代の日中文化交渉の俯瞰図を描き出すことを目指しました。

「東アジア宗教儀礼研究班」は、儒教・仏教・道教による儀礼の展開と社会秩序との関係、各宗教間の相互の影響関係について研究を進めました。儒教については、「朱子家礼」の思想の変容と日本での展開が明らかにされました。仏教については、従来手薄であった経典・経塚・肖像画・神像といった造形物と信仰のありかたと儀礼について検討を加えました。道教については、大陸の道教信仰がいかなる形で日本に伝播してくるかに着目し、日本に残る神像、建築について検証しました。

3研究班とも研究成果をまとめ、それぞれ論文や著書として公刊しました。

3研究班の課題と個別テーマ

【言語接触研究班】

●研究班研究課題
「周縁アプローチによる東西言語文化接触の研究とアーカイヴズの構築」

●研究員個別研究テーマ
内田　慶市「近代における欧米人の中国語研究」
乾　　善彦「古代における日中言語接触の実体」
奥村佳代子「非漢語圏における中国語資料研究」
沈　　国威「近代日中語彙交流史」

【近世近代日中文化交渉（日中移動伝播）研究班】

●研究班研究課題
「近世近代における日中間の人物移動と情報伝播」

●研究員個別研究
井上　克人「比較思想的視座から見る東アジアにおける日本の中世から近現代の思想の位相」
陶　　徳民「近代日中米文化交渉史の研究」
中谷　伸生「近世近代の日中間における美術交渉史の諸相」
藤田　高夫「日本と中国における近代学術としての歴史学形成をめぐる諸問題」
松浦　　章「近世近代日中交渉のバックグラウンドとしての海域ネットワーク」

【東アジア宗教儀礼研究班】

●研究班研究課題
「東アジアにおける宗教儀礼と社会秩序」

●研究員個別研究
原田　正俊「日本中世の仏教法会と社会」
吾妻　重二「朱熹『家礼』および泊園書院の研究」
二階堂善弘「東アジアにおける道教の文化交渉」
西本　昌弘「東アジアの宮廷年中行事」
長谷　洋一「近世仏像と歴史史料との関係について」

（外国語学部　奥村佳代子）

東アジア文化交渉学会第８回国際シンポジウム開催

去る５月７日、８日の両日、関西大学百周年記念会館にて、東アジア文化交渉学会2016年度年次大会、及び第８回国際学術シンポジウムが盛大に開催された。大会のテーマは、「東アジア交渉学の新しい歩み」であり、日本、韓国、シンガポール、中国、台湾、香港等のアジアの国と地域及びヨーロッパ、アメリカから、220名以上の研究者が大会に出席した。

大会は、台湾の蘇精元国立雲林科技術大学教授による「キリスト教宣教師文書と中西文化交流の研究」とドイツのラクナーエアランゲン大学教授による「Jacques Gernet 著『中国とキリスト教』をめぐって」と題する基調講演より、１日目の日程がスタートした。２日目は、斎藤明東京大学教授による基調講演「仏典翻訳の今昔（いまむかし）――漢訳とチベット語訳をめぐって」が行われた。２日間にわたり、150人が下記の分科会のテーマについて研究発表を行った。

1　東アジアの新しい文化史：書籍と人物
2　東アジアにおける近代社会と民間信仰
3　文化交渉学視点の東アジア知識史研究の諸問題
4　東アジアにおける近代学術システムの構築
5　東アジアにおける近代史観の形成と展開
6　東アジア近代知識史と新文化史の研究
7　専門データベースの構築と運用
8　人文学研究領域の古書のデジタル化
9　ビッグデータと近代東アジアの研究
10　その他東アジア文化交渉学と関連のあるテーマ

東アジア文化交渉学会は、2006年に設立を準備し、2007年５月に第１回年次大会を同じく関西大学にて開催した。東アジア文化交渉学会が提唱する研究理念は主に三つのキーワードにまとめられる。その１は「交渉」である。学会はこれを通して、相互作用を浮き立たせようとする。その２は「環流」である。これは知識の流動の複雑性を意味している。その３は「周辺」である。周辺から中心地を観察し、周辺資料から核心を解読することである。東アジア研究は、通時的には人類社会の進化の縮図を見るだけではなく、共時的には、脱文化、脱地域、脱領域といった視点から東アジアの世界史における位置と意味を再認識することができる。東アジア文化交渉学会は、各国の研究者に研究資源と交流の場を提供することを目指している。こうした学会の理念は広範な学者たちの支持を得、いまでは、500人以上の会員を擁する国際学会に成長した。

今大会の総会では、2017年東アジア文化交渉学会第９回国際学術大会は、中国北京外国語大学にて開催されることが承認され、同大学全球史研究院が学会運営を担当することになった。大会の詳細は以下の通りである。

テ　ー　マ：「グローバル史観と東アジアの知識移動」
会　　場：北京外国語大学
日　　時：2017年５月13日（土）、14日（日）
参加人数：100名程度

分科会（暫定）
1. グローバル史観と東アジア文化交渉学
2. 東アジアおよび西洋の観念の移動と相互作用
3. グローバル視野における東アジア諸国の各国史研究
4. 近代東アジアの出版および知識循環
5. 知識移動における文学・歴史・哲学・翻訳
6. 近代東アジアにおける新知識の伝播と旧生活方法の伝承
7. 新文化史・新生活史と記憶の研究
8. 東アジア知識史研究をとりまく問題

（外国語学部　沈　国威）

※本会は、関西大学創立130周年記念事業として開催されました。

研究員の活動報告

1 海外調査の紹介

2015年11月初旬、関西大学文学部の芝井敬司教授（西洋史学）と中谷伸生（日本美術史学）の２人の教員、それに東アジア文化研究科の６名の大学院生がスイスのチューリッヒ大学美術史研究所を訪問した。関西大学大学院文学研究科副専攻「EU－日本学」の国際ワークショップ・プログラムに沿った研究発表を行うためである。同研究所長で日本美術史家のハンス・トムセン（Hans Thomsen）教授と関大「EU－日本学」の共同企画で、日本学に関する研究を中心に、チューリッヒ側の院生３名と共に興味深い研究の交流がなされた。

東アジア文化研究科の院生の発表は、中島小巻「東西融合の美術史研究」、裵洙淨「民藝と朝鮮陶磁」、村上敬「大英博物館の円山応挙」、豊田郁「土田麦僊と西洋」、原田喜子「民藝館と柳宗悦の思想」、下出茉莉「迎田秋悦と京漆園」など、日本語と英語による充実した内容が披露された。懇親会も開かれ、ヨーロッパの日本学の方法論とその内容について話題が弾んだ。

（文学部　中谷伸生）

チューリッヒ大学美術史研究所にて

チューリッヒ市街

チューリッヒ市街

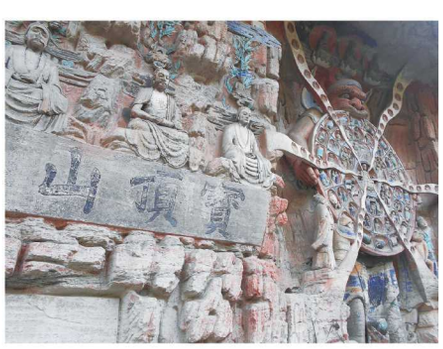
現在、研究の必要から様々なアジアの寺廟を訪れることが多い。直近では、2016年１月には四川重慶の大足、2015年にはベトナムのハノイとホイアンなどを調査した。いずれも非常に有意義な調査旅行であった。

ベトナムでは特に中部のミーソン遺跡、それにホイアンの華人廟が印象に残っている。ミーソン遺跡はチャンパ王国のヒンドゥー教の遺構である。惜しいことに、ベトナム戦争の影響を受けて、かなりの部分が破壊されてしまっている。それでも、いまに残る遺構はすばらしいものがある。ホイアンでは美しい街並み、それに媽祖廟や関帝廟など多くの寺廟が残っており、見応えがあった。

大足では、唐代から明代にかけて彫られた仏教・道教の石刻の像を見た。中国でこの時期のものがこれだけ残っている場所は珍しい。ただそのなかでも、宝頂山石刻と北山石刻はよく整備されており、調査するのに便利であったが、石門山石刻、石篆山石刻、南山石刻についてはあまり整備されておらず、調査にかなり手間取った。ただ、特に石門山においては、貴重な道教関連の像を数多く調査することができ、大きな収穫を得られた。今後とも、アジアの寺廟を継続して調査したい。

（文学部　二階堂善弘）

ミーソン遺跡


四川大足の宝頂山石刻

■ 関西大学東西学術研究所研究叢刊

東アジア言語接触の研究
沈　国威、内田　慶市 編著
2016年2月29日発行／448ページ

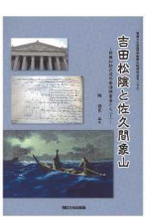
■ 関西大学東西学術研究所資料集刊

日本台湾統治時代のジャンク型帆船資料
―中国式帆船のアーカイヴズ―
松浦　章 編著
2015年10月31日発行／366ページ

家礼文献集成　日本篇 五
吾妻　重二 編著
2016年3月25日発行／382ページ

家礼文献集成　日本篇 六
吾妻　重二 編著
2016年3月30日発行／358ページ

吉田松陰と佐久間象山
―開国初期の海外事情探索者たち（Ⅰ）―
陶　徳民 編著
2016年3月31日発行／288ページ



■ 関西大学東西学術研究所訳注シリーズ

神話から神化へ―
―中国民間宗教における神仏観
劉　雄峰 著、二階堂善弘 監訳
2015年12月20日発行／228ページ

■ 文化交渉と言語接触研究・資料叢刊

官話指南の書誌的研究
付影印・語彙索引
内田　慶市・氷野　善寛 編著
2016年3月15日発行／725ページ

ICIS国際シンポジウム論文集『文化交渉学のパースペクティブ』を刊行

ICISの3研究班は昨年7月18日・19日の2日間、国際シンポジウム「文化交渉学のパースペクティブ」を開催した。2015年度に最初の研究期間である3年間の最終年度を迎えるにあたり、研究成果と展望を内外に発信すべく実施したもので、本書はその発表を中心にまとめた論文集である。3研究班のメンバーおよび海外の研究者による論文、合計16点を収める。

3研究班が立てたテーマはそれぞれ「東アジア圏における伝統と近代化」、「泊園書院研究」および「文化交渉と東アジアの宗教・思想」、「文化交渉学と言語接触研究の現状と展望」である。内容は文学、哲学、思想、学術、言語、歴史、美術、宗教あるいは漢学塾といった多種多彩な内容にわたり、地域的にも中国や日本、ベトナム、ヨーロッパなどにかかわっていて、いずれも従来の固定的枠組を踏み越える複眼的視野をもっているところに特色がある。

目　次

はじめに　吾妻重二
言語接触研究班　【文化交渉と言語接触研究】
域外漢語研究の過去・現在・未来－文化交渉学の視点から　内田慶市
中国におけるマテオ・リッチの世界地図の刊行と伝播　鄒　振環（二ノ宮聡訳）
中国語近代翻訳文体の創出：厳復の場合　沈　国威
漢文訓読という言語接触　乾　善彦
近世近代日中文化交渉（日中移動伝播）研究班【東アジア圏における伝統と近代化】
主従道徳と近代日本　高橋文博
近代日本と近代中国におけるイプセン受容　王　青
林泰輔の中国上代研究－伝統漢学から近代中国学への展開の一様相　藤田高夫
文化交渉学へ越境する日本美術史学　中谷伸生
明治洋画界における青木繁　髙橋沙希
近代中国における汽船時代の到来と文化交渉の変容　松浦　章
東アジア宗教儀礼研究班（Ⅰ）「泊園書院研究」
近代学制のなかの泊園書院　吾妻重二
泊園書院の教育と明治・大正期の実業家　横山俊一郎
東アジア宗教儀礼研究班（Ⅱ）「文化交渉と東アジアの宗教・思想」
『北斗本命延生経』徐道齢注の諸問題　三浦國雄
日中交渉史からみた杭州水心寺　西本昌弘
日中寺院における伽藍神の探求　二階堂善弘
ベトナムの「家訓」文献　佐藤トゥイウェン

ICISでは今後も、文化交渉学的視点にもとづく多彩なアプローチを通して研究の幅を広げ、論文成果の発信に努めていきたい。ご支援とご批評をお願いする次第である。

編｜集｜後｜記

「関西大学文化交渉学ニューズレター」第2号をお届けいたします。関西大学創立130周年記念事業として今年5月に開催された「東アジア文化交渉学会第8回国際シンポジウム」の発表者数は、過去最多でした。今回が初めての発表者も多くおられました。文化交渉学会が、従来の学会の枠にはおさまらない研究の成果を発表する場として、大いに機能することが期待されます。（編集者）

表紙右上掲載写真：
【左上】チューリッヒの町並み（スイス）
【右上】大同の雲崗石窟
【右下】第8回東アジア文化交渉学会にて、（左から）内田慶市新会長、王敏前会長、李雪涛次期開催校（北京外国語大学）代表の三氏。
【左下】大同の孔子廟の尊経閣

発行：関西大学文化交渉学研究拠点
(Kansai University Institute for Cultural Interaction Studies)

〒564-8680　大阪府吹田市山手町3-3-35
TEL：06-6368-0653　FAX：06-6339-7721
E-mail：touzaiken@ml.kandai.jp
URL　http://www.kansai-u.ac.jp/Tozaiken/

発行日：2016年（平成28年）8月